



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月9日

上場会社名 東邦亜鉛株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5707 URL <http://www.toho-zinc.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 丸崎公康
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 田邊正樹 TEL 03-6212-1716
 四半期報告書提出予定日 2020年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	45,209	△8.0	2,976	—	3,387	—	2,702	—
2020年3月期第2四半期	49,160	△15.9	△7,752	—	△7,336	—	△6,702	—

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 △105百万円(—%) 2020年3月期第2四半期 △8,256百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2021年3月期第2四半期	199	03	—	—
2020年3月期第2四半期	△493	63	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	120,885	—	36,203	—	29.9	—
2020年3月期	117,333	—	36,309	—	30.9	—

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 36,203百万円 2020年3月期 36,309百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2020年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年3月期(予想)	—	0.00	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2021年3月期の配当予想につきましては、現時点で引き続き未定です。配当予想の開示が可能となった段階で、速やかに公表いたします。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	91,000	△6.6	4,000	—	4,200	—	3,280	—	241.51	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー 社 （社名） ー、除外 ー 社 （社名） ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期2Q	13,585,521株	2020年3月期	13,585,521株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	7,346株	2020年3月期	7,162株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期2Q	13,578,273株	2020年3月期2Q	13,578,451株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 6「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

当社は、2020年11月9日（月）に機関投資家、証券アナリスト向け説明会をオンラインで開催する予定です。この説明会で使用する資料につきましては、決算発表と同時にTDnet及び当社ホームページで開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12
3. その他	14
連結売上高明細表	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の連結業績は以下の通りです。売上高は減収となりましたが、営業利益・経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前年同期比で増益となりました。

(単位：百万円)

	2019年9月期	2020年9月期	増減(増減率%)	
売上高	49,160	45,209	△3,951	(△8)
営業利益又は損失(△)	△7,752	2,976	10,728	(-)
経常利益又は損失(△)	△7,336	3,387	10,723	(-)
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は損失(△)	△6,702	2,702	9,405	(-)

《経営環境》

当第2四半期連結累計期間の当社グループを取り巻く事業環境は以下の通りです。

当社の主力製品である亜鉛や鉛の金属相場は、前年度末の新型コロナウイルス感染症の影響(以下、「コロナ影響」)による急落から一転して、最大消費国である中国が経済活動を早期に再開したこともあり、回復基調となりました。銀についても、金相場に追随する形で上昇しました。

一方為替相場は、豪州に鉱山会社(CBH Resources Ltd.(以下、「CBH社」という。))を有する当社グループに影響を与える米ドル/豪ドル相場につきましては、1～3月(CBH社の第1四半期)は金属価格の下落に伴い豪ドル安、4～6月(同社の第2四半期)は金属価格の上昇に伴い豪ドル高と対照的な動きとなりました。期中平均では前年同期比豪ドル安となりました(豪ドル安は資源事業の業績にプラスの影響)。

販売面では、コロナ影響に伴う経済活動の停滞により、当社グループには厳しい環境となりました。

《売上高》

当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、コロナ影響もあり、国内の殆どの事業部門で減収となったことに加え、資源事業においても、CBH社エンデバ―鉱山の昨年末からの休止などもあり、連結売上高は前年同期比で減収となりました。

《利益》

損益面では、前年同期の在庫評価損が当四半期では在庫評価益に転じたこと、買鉱条件の改善や金の増販などもあり、製錬事業で営業利益が前年同期比90億円の増益となりました。加えて資源事業でも営業損失が前年同期比20億円縮小したこともあり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前年同期比で増益かつ黒字に転じました。

セグメントの業績は次のとおりであります(以下、各セグメントの売上高には、セグメント間売上高を含みません)。

① 製錬事業部門

(単位：百万円)

	2019年9月期	2020年9月期	増減 (増減率%)	
売上高	36,372	36,066	△305	(△1)
営業利益又は損失 (△)	△5,512	3,468	8,981	(-)

《亜鉛》

LME相場は、期初から回復基調となり、特に第2四半期は、米国他各国の経済指標も回復基調となったこともあり、上昇しました。しかしながら、期中平均では前年同期比で相場安となったことと減販により、売上高は前年同期比30%の減収となりました。

《鉛》

亜鉛同様に、期中平均では前年同期比で相場安となったことと減販により、売上高は前年同期比16%の減収となりました。

《銀》

ロンドン銀相場は、世界的な金融緩和政策等を受けて上昇しました。加えて増販も寄与し、売上高は前年同期比45%の増収となりました。

以上のほか、硫酸などその他の製品を合わせた当事業部門の業績は、前年同期比での金属相場安や亜鉛・鉛の減販もあり減収となりました。一方、営業利益は在庫評価益の計上（前年同期は在庫評価損を計上）や金・銀の増販、非鉄スラグ処理費用の減少などもあり、前年同期比で90億円の大増益かつ黒字転換となりました。

なお、金属相場（月平均）及び為替相場（月平均）の推移は下表のとおりであります。

区 分	亜鉛		鉛		銀		為替レート	
	LME相場	国内価格	LME相場	国内価格	ロンドン相場	国内価格	円/米ドル	米ドル/豪ドル
	\$/t	¥/t	\$/t	¥/t	\$/toz	¥/kg	¥/\$	US\$/A\$
2018年3月	3,280	394,400	2,397	316,000	16.5	57,650	106.07	0.7768
6月	3,092	389,000	2,441	333,000	16.5	59,870	110.03	0.7494
9月	2,433	320,500	2,028	292,000	14.3	52,700	111.91	0.7197
12月	2,626	345,100	1,965	286,000	14.7	54,320	112.51	0.7187
2019年3月	2,851	365,800	2,055	294,900	15.3	56,120	111.24	0.7076
6月	2,602	332,500	1,892	267,800	15.0	53,520	108.12	0.6945
9月	2,320	299,400	2,071	284,200	18.2	64,430	107.45	0.6800
12月	2,274	299,800	1,899	272,200	17.1	61,350	109.24	0.6872
2020年3月	1,906	259,400	1,745	249,200	14.9	54,000	107.41	0.6235
6月	2,021	272,200	1,740	248,700	17.7	62,700	107.55	0.6888
9月	2,451	311,200	1,881	265,500	25.9	89,940	105.76	0.7231

② 資源事業部門

(単位：百万円)

	2019年9月期	2020年9月期	増減 (増減率%)
売上高	6,798	4,598	△2,199 (△32)
営業損失 (△)	△3,079	△1,096	1,983 (－)

前年同期（1月－6月）比での金属相場安や、CBH社エンデバー鉱山の休止などもあり、売上高は前年同期比大幅な減収となりました。一方損益面では、CBH社ラスプ鉱山が金属相場影響で減益となったものの、エンデバー鉱山の休山前コストが当期は消滅したことや、決算期ズレの調整効果もあり、前年同期比で損失が減少しました。

③ 電子部材事業部門

(単位：百万円)

	2019年9月期	2020年9月期	増減 (増減率%)
売上高	2,497	1,925	△572 (△23)
営業利益	217	97	△119 (△55)

《電子部品》

コロナ影響で海外顧客の操業が落ち込んだOA機器向けが減販となり、売上高は前年同期比16%の減収となりました。

《電解鉄》

コロナ影響で航空機向け特殊鋼、鉄鋼研究開発向けの販売量が落ち込み、売上高は前年同期比21%の減収となりました。

《プレーティング》

コロナ影響で主用途の車載用が大幅に減販となったことから、売上高は前年同期比33%の減収となりました。

《機器部品》

コロナ影響もあり、粉末冶金部門は自動車関連製品が低調に推移し、また、タイヤ用バランスウエイト部門も自動車ライン向けの減少が大きく、売上高は前年同期比31%の減収となりました。

以上の結果、当事業部門の業績は、前年同期比で減収減益となりました。

④ 環境・リサイクル事業部門

(単位：百万円)

	2019年9月期	2020年9月期	増減 (増減率%)
売上高	2,249	1,407	△841 (△37)
営業利益	500	288	△211 (△42)

主力製品の酸化亜鉛は、コロナ影響による自動車生産台数の減少もあり前年同期比減販、加えて亜鉛の国内価格が前年同期比で安かったこともあり減収となりました。使用済みニカド電池の処理や硫酸リサイクルなどその他のリサイクル事業についても前年同期比減収となり、当事業部門の業績は、前年同期比で減収減益となりました。

⑤ 土木・建築・プラントエンジニアリング事業部門

(単位：百万円)

	2019年9月期	2020年9月期	増減 (増減率%)
売上高	1,167	955	△212 (△18)
営業利益又は損失 (△)	△17	111	129 (－)

当期はコロナ影響から営業活動が制限され受注が減少したこともあり、前年同期比18%の減収となりました。しかしながら、当期は前期にあったプラントエンジニアリング事業での不採算の案件が無くなったことから、前年同期比で増益となり、黒字に転じました。

⑥ その他事業部門

(単位：百万円)

	2019年9月期	2020年9月期	増減 (増減率%)
売上高	3,457	3,389	△68 (△2)
営業利益	222	284	61 (28)

《防音建材 (商品名：ソフトカーム) 事業》

コロナ影響により一部の現場で工事が遅延したこともあり、医療向けX線遮蔽用鉛板に加えプラントの設備防音用鉛シートが減販、更に住宅着工数の減少も加わり、売上高は前年同期比で12%の減収となりました。

以上のほか、環境分析部門を合わせた当事業部門の業績は、前年同期比で若干の減収となりましたが、損益面においては、原料価格の下落等もあり、前年同期比増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、投資有価証券売却やC B H社資産の円高による円換算額の目減り影響等で固定資産が23億円減少したものの、金属相場の上昇による売上債権やたな卸資産の増加などもあり、前連結会計年度末に比べ35億52百万円増加し、1,208億85百万円となりました。

負債については、運転資金需要への対応により、有利子負債が増加し、前連結会計年度末に比べ36億57百万円増加し、846億82百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ1億5百万円減少し、362億3百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は29.9%となり、前連結会計年度末に比して、1.0ポイント下落しております。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ26億10百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末は108億17百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、52百万円の支出（前期は87百万円の収入）となりました。利益の計上による収入はあったものの、金属相場の上昇による売上債権やたな卸資産の増加に起因する運転資金需要もあり、若干の支出となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、2億1百万円の支出（前期比67億66百万円の支出減）となりました。前年同期は、新規鉱山への投資及び開発や探査活動を強化したことによる支出があったものの、当四半期はそのような投資が少なかったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは28億84百万円の収入（前期比69億3百万円の収入減）となりました。これは主に、運転資金需要への対応により、有利子負債が前期に比して増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年10月23日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,207	10,817
受取手形及び売掛金	10,655	11,891
電子記録債権	231	324
商品及び製品	9,157	10,567
仕掛品	9,841	12,515
原材料及び貯蔵品	16,006	15,605
その他	5,201	3,415
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	59,301	65,136
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,147	6,824
機械装置及び運搬具（純額）	13,306	12,672
土地	17,175	16,604
その他（純額）	1,407	1,435
有形固定資産合計	39,038	37,536
無形固定資産		
鉱業権	10,957	11,271
その他	57	56
無形固定資産合計	11,014	11,328
投資その他の資産		
投資有価証券	4,943	4,243
その他	3,922	3,529
貸倒引当金	△887	△887
投資その他の資産合計	7,978	6,884
固定資産合計	58,031	55,749
資産合計	117,333	120,885

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,890	7,823
短期借入金	24,101	27,083
1年内返済予定の長期借入金	7,848	4,683
コマーシャル・ペーパー	4,000	8,000
未払法人税等	172	272
引当金	232	225
その他	7,444	7,691
流動負債合計	50,690	55,779
固定負債		
長期借入金	20,486	19,428
引当金	653	651
退職給付に係る負債	206	200
資産除去債務	3,726	3,598
再評価に係る繰延税金負債	4,345	4,173
その他	916	849
固定負債合計	30,334	28,902
負債合計	81,024	84,682
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,630	14,630
資本剰余金	9,876	9,876
利益剰余金	1,648	4,740
自己株式	△30	△30
株主資本合計	26,125	29,217
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	207	136
繰延ヘッジ損益	1,036	△903
土地再評価差額金	8,997	8,608
為替換算調整勘定	58	△746
退職給付に係る調整累計額	△116	△108
その他の包括利益累計額合計	10,183	6,986
純資産合計	36,309	36,203
負債純資産合計	117,333	120,885

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	49,160	45,209
売上原価	52,756	38,423
売上総利益又は売上総損失(△)	△3,595	6,786
販売費及び一般管理費	4,157	3,810
営業利益又は営業損失(△)	△7,752	2,976
営業外収益		
受取利息	2	28
受取配当金	59	48
為替差益	—	331
受取保険金	424	—
その他	329	290
営業外収益合計	815	698
営業外費用		
支払利息	190	246
持分法による投資損失	—	0
為替差損	131	—
その他	77	40
営業外費用合計	398	287
経常利益又は経常損失(△)	△7,336	3,387
特別利益		
固定資産売却益	27	409
投資有価証券売却益	11	281
特別利益合計	38	691
特別損失		
減損損失	696	5
固定資産除却損	135	76
特別損失合計	831	81
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△8,128	3,996
法人税、住民税及び事業税	15	324
法人税等調整額	△1,441	969
法人税等合計	△1,426	1,293
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△6,702	2,702
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△6,702	2,702

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△6,702	2,702
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△225	△71
繰延ヘッジ損益	△812	△1,940
為替換算調整勘定	△507	△804
退職給付に係る調整額	△8	8
その他の包括利益合計	△1,553	△2,807
四半期包括利益	△8,256	△105
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△8,256	△105
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△8,128	3,996
減価償却費	2,641	2,373
減損損失	696	5
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1	0
その他の引当金の増減額(△は減少)	△54	7
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△0	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△11	2
受取利息及び受取配当金	△61	△76
支払利息	190	246
為替差損益(△は益)	93	△232
持分法による投資損益(△は益)	—	0
売上債権の増減額(△は増加)	2,072	△1,155
たな卸資産の増減額(△は増加)	3,688	△3,793
仕入債務の増減額(△は減少)	△3,428	682
固定資産売却損益(△は益)	△27	△409
固定資産除却損	135	76
未払消費税等の増減額(△は減少)	212	△303
その他	1,237	△1,032
小計	△744	386
利息及び配当金の受取額	64	93
利息の支払額	△195	△275
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	963	△256
営業活動によるキャッシュ・フロー	87	△52
投資活動によるキャッシュ・フロー		
関係会社出資金の払込による支出	△663	—
有形固定資産の取得による支出	△2,573	△1,631
有形固定資産の売却による収入	94	1,020
無形固定資産の取得による支出	△1,830	△1,052
投資有価証券の取得による支出	△1,558	△1
投資有価証券の売却による収入	57	787
貸付けによる支出	△377	—
貸付金の回収による収入	—	739
その他	△117	△64
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,968	△201
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	7,591	3,088
長期借入れによる収入	1,600	—
長期借入金の返済による支出	△1,448	△4,167
コマーシャル・ペーパーの増減額(△は減少)	3,000	4,000
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△950	—
その他	△4	△35
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,788	2,884
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	△20
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,896	2,610
現金及び現金同等物の期首残高	10,248	8,207
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,144	10,817

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

(非鉄スラグ製品の処理に係る偶発債務)

当社安中製錬所が過去に出荷した非鉄スラグ製品の一部において、土壌汚染対策法の土壌環境基準を超過した製品があること、ならびに、当社の管理不足により不適切な使用・混入がなされた可能性のあることが、調査の結果判明いたしました。今後も、当該製品を回収、撤去するための費用負担が発生する可能性があります。現時点では四半期連結財務諸表に与える影響額を合理的に見積もることは困難であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					計	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結 損益 計算書 計上額 (注) 3
	製錬	資源	電子部材	環境・リ サイクル	土木・建 築・プラ ントエン 지니어リ ング					
売上高										
外部顧客への売上高	36,241	5,692	2,497	2,249	1,060	47,740	1,419	49,160	—	49,160
セグメント間の内部 売上高又は振替高	131	1,105	0	—	107	1,345	2,037	3,382	△3,382	—
計	36,372	6,798	2,497	2,249	1,167	49,086	3,457	52,543	△3,382	49,160
セグメント利益又は 損失(△)	△5,512	△3,079	217	500	△17	△7,891	222	△7,669	△83	△7,752

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、防音建材、運輸、環境分析等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△83百万円には、セグメント間取引消去18百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△102百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

「資源」セグメントにおいて、鉱山の生産計画の見直しにより、今後は投下資本に見合うだけの十分なキャッシュ・フローの回収が見込めないと判断し、資源事業(エンデバー鉱山)に係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。また、同セグメントにおいて、探査活動が終了した案件についてその帳簿価額的全額を減損損失として計上しております。当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においてそれぞれ649百万円及び46百万円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結 損益 計算書 計上額 (注) 3
	製錬	資源	電子部材	環境・リ サイクル	土木・建 築・プラ ントエン 지니어リ ング	計				
売上高										
外部顧客への売上高	35,792	3,865	1,925	1,407	855	43,846	1,363	45,209	—	45,209
セグメント間の内部 売上高又は振替高	274	732	—	0	100	1,107	2,025	3,133	△3,133	—
計	36,066	4,598	1,925	1,407	955	44,953	3,389	48,342	△3,133	45,209
セグメント利益又は 損失(△)	3,468	△1,096	97	288	111	2,870	284	3,154	△178	2,976

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、防音建材、運輸、環境分析等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△178百万円には、セグメント間取引消去10百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△189百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他

連結売上高明細表

品名	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)		前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
亜鉛製品	14,634	29.8	10,266	22.7	28,061	28.8
鉛製品	10,651	21.7	8,959	19.8	22,974	23.6
電気銀	8,192	16.7	11,893	26.3	17,652	18.1
硫酸	807	1.6	680	1.5	1,599	1.6
鉱石販売等	5,692	11.6	3,865	8.5	9,647	9.9
電子部品	902	1.8	762	1.7	1,724	1.8
電子材料等	1,595	3.3	1,163	2.6	3,204	3.3
環境・リサイクル製品	2,246	4.6	1,407	3.1	4,176	4.3
防音建材	756	1.5	662	1.5	1,478	1.5
完成工事高	1,056	2.1	845	1.9	2,201	2.3
その他	2,624	5.3	4,703	10.4	4,723	4.8
合計	49,160	100.0	45,209	100.0	97,445	100.0